難病

発病のメカニズムが明らかでなく治療法が確立していない希少な疾病であって、当該疾病にかかることにより長期にわたり療養が必要となる疾病を指す。就労世代では、大腸の粘膜や全消化管に慢性の炎症や潰瘍が生じる「潰瘍性大腸炎、クローン病」、免疫機能に異常を来す「全身性エリテマトーデス」等の疾病が多くみられる。多くの難病に共通する主な症状として、疲労や倦怠感、痛み、発熱、集中力の低下等の全身的な体調の崩れやすさがあるほか、疾病に応じて様々な症状がある。厚生労働省の「令和3年度衛生行政報告例」によると、全国で国から医療費の助成を受けている患者は約102万人、このうち約6割が就労世代(20～69歳)といわれている。

主な治療方法

根治につながるような治療方法が確立されていないため、症状を抑えたり進行を緩やかにする治療(内服薬、自己注射等)を行う。潰瘍性大腸炎やクローン病では、定期的な内視鏡検査や薬物治療等、内科治療が主体となることが多く、全身性エリテマトーデスでは、免疫抑制効果のあるステロイド等、薬物治療が主体となる。

症状や治療の特徴を踏まえた主な留意事項

- 仕事による疲労が蓄積しないように休息をとりやすくするなど、体調を維持しやすくするような配慮をする。
- 症状や障害に応じた作業環境や内容変更等の配慮を行う。
- 定期的な面談など、労働者から症状、体調の変化について申出しやすい環境を整備する。

肝疾患

主な疾患として、肝炎ウイルスによる「ウイルス性肝疾患」、生活習慣が原因の「脂肪性肝疾患」等がある。肝臓は“沈黙の臓器”といわれるとおり、明らかな症状が出る頃には、肝硬変など病気が進行した状態となっている場合がある。肝機能は、一般定期健康診断の血液検査の測定値によって正常かどうかが分かる(肝炎ウイルスに感染しているかは、別に肝炎ウイルス検査を受ける必要がある)。厚生労働省の「令和3年一般定期健康診断結果報告」によると、就労世代の16.6%において肝機能検査で異常が認められている。

主な治療方法

早期の「受検・受診・受療」が最も重要であり、いずれの肝疾患の場合も食事療法や運動療法による生活習慣の改善が基本となる。ウイルス性肝疾患の場合は注射や内服薬、肝がんの場合は肝切除を行う手術や体の外から針を刺してがんを焼灼するラジオ波焼灼療法等を行う。慢性肝炎の場合、1～2週間に1回の通院が必要となる。

症状や治療の特徴を踏まえた主な留意事項

- 症状の進行により、記憶力や判断力の低下を来すことがあるため、業務内容の制限が必要になる場合がある。
- 治療終了後も肝硬変や肝細胞がんへの進行を防ぐための定期的な通院治療が必要となる場合もあることから、通院に配慮する。
- 肝炎ウイルスは通常の就業の範囲で感染することはほとんどないため、正しい知識の啓発や環境整備を行うことが大切である。

がんに罹患した従業員への両立支援取組例

●事業所全体で両立者を見守る姿勢が必要

従業員ががんに罹患したことがきっかけで、治療と仕事の両立支援に取り組み始めました。両立者本人に寄り添った対応を心がけ、周囲のスタッフも両立者の体調を確認しつつ、必要に応じて業務量の見直しなどを実施。早退や時差勤務も利用して仕事に臨んでもらいました。復帰と休職を繰り返すことになりましたが、復帰の都度、こまめに体調などを確認しました。

病気休暇以外に制度を設けていませんでしたが、本人の状況に合わせた対応に重きを置いて、今後も個別で支援をしていく予定です。

愛知県トラック事業健康保険組合

所在地:名古屋市
業種:医療・福祉
従業員数:17名